

公立高校・都立高校の入試制度

【目次】

1. 神奈川県公立高校入試について P 1～ 8
2. 東京都立高校入試について P 9～15
3. 国私立高校入試について P 16～22

1. 神奈川県公立高校入試について

(1) 公立入試制度

■ 従来の公立入試制度と2024年度の変更点について

- ① 入試の機会は1回のみ。ただし、倍率を見て志願変更が1回可能。病欠者のために追検査日も設けられる。
- ② 全志願者に共通の「学力検査(入試)」を実施する。英語と国語の一部記述問題以外は全てマークシート方式を採用する。1教科100点満点で原則5教科500点満点。
- ③ 選考は「調査書(内申)」と「学力検査(入試)」で行う。2024年度(現中3)から面接は基本的になくなる。
- ④ 一部の高校では、「特色検査」を実施する。「自己表現検査」は学力向上進学重点校とそのエントリー校で行われる。「実技検査」や「面接」は専門コースで行われる。配点は各高校の任意で100~500点。
- ⑤ 合格発表はインターネットで行われる。その後、受検校へ書類を取りに行くことで得点と答案も開示される。

① 志願変更と学力検査(入試)

- ・志願変更は1回のみ可能。
- ・入試は2月中旬の「共通選抜」1回のみ。
- ・病欠者のために約1週間後の追検査日を設定。

② 全志願者に「学力検査(入試)」を実施

- ・学力検査は英数国理社の5科目が原則。
- ・1科目100点×5科目=500点満点。
- ・特色検査を実施する場合は、学力検査を3科目まで減じることが可能。

(例) 神奈川総合(舞台芸術科): 英数国と理社から1科選択、相模原弥栄(音楽・美術): 英数国 など。

公立入試カレンダー(2023年度)

1/25(水)~2/1(水)	郵送または直接出願
2/6(月)~2/8(水)	志願変更
2/14(火)	学力検査(共通選抜)
2/15(水)~2/17(金)	面接・特色検査
2/22(水)	追検査日
2/28(火)	合格発表
3/9(木)	追検査日(新型コロナ)
3/15(水)	合格発表

③ 選考方法

- ・現中3の2024年度より、**面接は特色検査として一部の専門性の高いコースとクリエイティブコースのみで実施される**。なお、詳細は毎年7月頃に発表される。

■ 選考資料

・A値: 調査書(内申)

中2学年末の内申(45点満点)+中3の12月の内申×2(90点満点)=135点満点。
ただし、高校ごとに3科目まで2倍以内の重点化が可能。

・B値: 学力検査(入試)

英数国理社の1科目100点×5=500点満点。
ただし、高校ごとに2科目まで2倍以内の重点化が可能。

・C値: 観点別学習状況

中3の12月の各科目の観点別評価「主体的に学習に取り組む態度」3点満点×9教科=27点満点。観点別評価はA°・A=3点、B=2点、C°・C=1点とする。

・D値: 特色検査(自己表現検査、実技検査、面接)

自己表現検査は18校が100点満点の共通問題を利用するが、その他の検査は各高校独自のもので算出方法も異なる。

■ 選考方法

・第1次選考(定員の90%)

調査書(内申)のA値を100点満点に換算した(a)と学力検査(入試)の得点B値を100点満点に換算した(b)を基に、各学校で定めた比率(f、g)に基づき合計数値を算出する。ただし、(f、g)は2以上の整数でf+g=10を満たすように設定する。

$$S_1 = (a \times f) + (b \times g)$$

特色検査を実施した場合は、その結果D値を100点満点に換算した(d)を基に、各学校で定めた比率(i)を乗じた数値を加える。(i)は1以上5以下の整数とする。

$$S_1 = (a \times f) + (b \times g) + (d \times i)$$

・第2次選考(定員の10%)

学力検査(入試)の得点B値を100点満点に換算した(b)と、観点別学習状況のC値を100点満点に換算した(c)を基に、各学校で定めた比率(g、h)に基づき合計数値を算出する。(g、h)はそれぞれ2以上の整数とし、g+h=10を満たすように改めて設定する。

$$S_2 = (b \times g) + (c \times h)$$

特色検査を実施した場合は、上記の式にD値の数値を加算する。計算方法は第一次選考と同じである。

$$S_2 = (b \times g) + (c \times h) + (d \times i)$$

なお、横浜国際の国際バカロレアコースは第2次選考を行わない。

④ 各選考資料の配点割合についてのまとめ

・調査書(内申)135点満点、学力検査(入試)500点満点の場合、高校ごとの比率によって以下ようになる。

■ 第1次選考のS値における調査書(内申)と学力検査(入試)の価値

比率 (内申:入試)	内申1点がS値1,000点満点 に占める割合	入試1点がS値1,000点満点 に占める割合
200:800	1.48点	1.6点
300:700	2.22点	1.4点
400:600	2.95点	1.2点
500:500	3.70点	1.0点
600:400	4.44点	0.8点
700:300	5.19点	0.6点
800:200	5.93点	0.4点

・2023年度までの入試では、内申400:入試400の比率を採用する高校が一番多かった。2024年度における各高校の比率は7月頃に発表される見込みだが、おそらく500:500が多いと予想される。

■ 2023年度の比率例(面接を除く)

内申:入試	高校例
200:600	横浜翠嵐のみ
300:500	横浜緑ヶ丘、多摩、希望ヶ丘、大和、神奈川総合、海老名、市立東、住吉、大和西など
400:400	川和、相模原、横浜平沼、新城、市ヶ尾、生田、港北、みなと総合、元石川、瀬谷岸根、橋本、霧が丘、城郷、麻生、川崎北、旭、百合丘、新栄、新羽、生田東など
300:500	荏田、白山(普)、横浜旭陵など

■ 第2次選考のS値における観点別評価と学力検査(入試)の価値

比率 (観点別評価:入試)	観点別評価1点がS値1,000点 満点に占める割合	入試1点がS値1,000点満点 に占める割合
200:800	7.4点	1.6点
300:700	11.1点	1.4点
400:600	14.8点	1.2点
500:500	18.5点	1.0点
600:400	22.2点	0.8点
700:300	25.9点	0.6点
800:200	29.6点	0.4点

・2024年度入試では、観点別評価1点の重みが非常に高くなるため、200:800の比率を採用する高校が多くなると予想される。こちらも7月の正式発表を待つ必要があるが、2次選考狙いの受検はお勧めできない。

⑤ 「特色検査」について

- ・特色検査は必要な高校のみが実施する。実技検査と自己表現検査と面接の3種類となる。
- ・実技検査と面接は主に専門コースで実施されて適性が判断される。
- ・自己表現検査は主にトップ校で実施される。情報活用力・論理性・思考力・表現力などが判断される。各高校で独自に問題を作成していたが、2019年度から横浜翠嵐・湘南・柏陽・厚木・希望ヶ丘・横須賀・平塚江南の7校は共通問題と共通選択問題を用いた。2019年度に独自の自己表現検査を実施した高校には、横浜国際の口頭試問、神奈川総合(国際)の集団討論、横浜緑ヶ丘があった。
- ・2020年度より全ての学力向上進学重点校とエントリー校で自己表現検査を実施。新たに川和・多摩・大和・相模原・横浜平沼・光陵・鎌倉・茅ヶ崎北陵・小田原の9校が加わった。2021年度より横浜緑ヶ丘、2022年度より横浜国際が共通問題を採用して、横浜SFと横浜国際のIBのみ独自問題を実施した。

■ 選考資料・選考方法

A値:調査書(内申)、B値:学力検査(入試)に、特色検査の結果としてD値を加算したS値の高い順に合格者を決定する。D値は100~500点満点とし、各高校で設定する。特色検査を実施する高校は、学力検査(入試)を3~5科目から設定する。

■ 自己表現検査の出題内容(2023年度共通問題)

- 共通問題1:ハイブリッドカーや電気自動車に関する英語長文3つを読んで答える(5問)
- 共通問題2:蛍に関する複数の文章を読んで、教科横断型の問題に答える(5問)
- 選択問題3:花火に関する複数の文章を読んで、教科横断型の問題に答える(7問)
- 選択問題4:論理的思考力や数的思考力を問う小問集合(8問)
- 選択問題5:論理的思考力や数的思考力を問う小問集合(9問)
- 選択問題6:論理的思考力や数的思考力を問う小問集合(5問)
- 選択問題7:サンゴ礁やアルミニウムに関する文章を読んで読解力や論理的思考力を問う(6問)

■ 自己表現検査(共通問題 18 校)の出題一覧(2023 年度)

	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7
横浜翠嵐	●	●				●	●
湘南	●	●	●		●		
柏陽	●	●		●	●		
川和	●	●	●	●			
厚木	●	●				●	●
横浜緑ヶ丘	●	●	●			●	
多摩	●	●		●		●	
希望ヶ丘	●	●	●			●	
大和	●	●	●	●			
相模原	●	●	●	●			
光陵	●	●		●		●	
横須賀	●	●	●			●	
小田原	●	●		●		●	
平塚江南	●	●		●	●		
鎌倉	●	●			●		●
横浜平沼	●	●	●		●		
茅ヶ崎北陵	●	●	●		●		
横浜国際	●	●	●	●			

■ 実技検査の例(2023 年度)

高校名	特色検査	評価の観点	検査の概要
神奈川総合 舞台芸術科	身体表現 演技表現	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かす能力 ・表現の創意工夫 ・言葉で伝える能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・当日指定した順序で「歩く」「走る」「ジャンプする」「座って立ち上がる」などの動作を連続して行う。 ・出願時に与えられた課題文(戯曲または会話文)を声に出して読む。
相模原弥栄 美術科	デッサン	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の技術 ・表現の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた題材 3 つを鉛筆デッサン(素描)する。 ・鉛筆(2H・H・F・HB・B・2B・3B・4Bの範囲で使用可)を持参する。 ・B4 画用紙は学校で用意する。 ・検査時間は 60 分とする。
相模原弥栄 スポーツ科学科	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的技能 ・応用技能 	<p>実技検査(選択する実技種目)</p> <p>バレーボール、バスケットボール、バドミントン、サッカー、陸上競技、剣道、ベースボール型実技、総合運動技能の 8 種目から 1 種目を選択し、技能検査。 ※ただし、陸上競技は、「短距離走、中・長距離走、ハードル走、跳躍、投てき」から 1 種目を選択する。</p>

(2) 入試制度の傾向と対策

年度や科目によって難易度の変化はあるものの、出題形式もほぼ定まってきた。どの科目にも共通しているのは、他府県の公立入試と比較して文字数が多いことと資料を素早く読み取って理解した上で、知識を組み合わせて答えることである。以下に入試対策を述べる。

① 学力検査(入試)について

■ 内申重視の高校は入試での逆転が難しい

2023 年度までの入試を例に挙げると、A 値(内申)と B 値(入試)の比率が同じだった川和・市ヶ尾・港北・元石川などでは、内申の 6 点差を入試得点で逆転するのに約 23 点多くとる必要があった。特にトップ校である川和の受検者は通常難易度の合格平均点が 430 点前後になるため、さらに 20 点以上多くとろうとすると、正解率 9 割弱の 450 点以上となり、逆転は厳しくなる。トップ校の合格にはまず内申を上げることが重要になってくる。

そのため、2024 年度の発表を待って 400:600 や 300:700 の比率を採用するトップ校を選択することも一つの手である。また、希望ヶ丘は特色検査の選択問題で図形やパズルなどの数学的思考力を必要とする問題を好む傾向があるので、そうした問題が得意であれば検討するとよい。

なお、志願変更後の倍率より最終倍率が下がる高校は、一部のトップ校のみである。国私立難関校に一般受験で合格したために、公立入試を辞退することが主な理由である。2023 年度の辞退者が多かった高校は、横浜翠嵐の 40 名だった。逆に、辞退者が少ないトップ校は、川和の 9 名、横浜緑ヶ丘の 9 名、多摩の 5 名、大和の 6 名、相模原の 3 名などである。横浜翠嵐を含めて辞退者が近年減少傾向にあるのは、大学合格実績がさらに伸びたために国私立難関校よりも魅力を感じたからと思われる。

内申:入試	内申 1 点を入試に換算した点数
200:800	内申 1 点=入試 0.92 点
300:700	内申 1 点=入試 1.58 点
400:600	内申 1 点=入試 2.46 点
500:500	内申 1 点=入試 3.70 点
600:400	内申 1 点=入試 5.55 点
700:300	内申 1 点=入試 8.63 点
800:200	内申 1 点=入試 14.80 点

■ 入試で逆転するには…



Xくん

(A値 108/135 [36/45]、B値 380/500)



Yくん

(A値 102/135 [34/45])



- A値:B値=200:800 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **6 点多く(386/500)**とれば逆転!
- A値:B値=300:700 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **10 点多く(390/500)**とれば逆転!
- A値:B値=400:600 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **15 点多く(395/500)**とれば逆転!
- A値:B値=500:500 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **23 点多く(403/500)**とれば逆転!
- A値:B値=600:400 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **33 点多く(413/500)**とれば逆転!
- A値:B値=700:300 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **52 点多く(432/500)**とれば逆転!
- A値:B値=800:200 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **89 点多く(469/500)**とれば逆転!

■ 2022 年度の出題傾向と今後の対策

学力検査の合格者平均点は年度により異なる。特に 2016 年度から 18 年度にかけては、平均点の上下動が激しい。その理由として挙げられるのは、マークシートの導入と記述問題の大幅な削減である。

このような状況が起きた背景には、2016 年度に起きた採点ミスの問題がある。記述問題は、字数が多くなればなるほど一つの模範解答に集約することが難しい。また、採点する際に基準を設けても、どうしても採点者によって、ズレが生じる。採点ミスを防ぐために合計 5 回ものチェックを行い、それでも疑問点が出るたびに会議を開いて決定したと、ある高校の校長は話してくれた。そのため、記述問題の分量を減らして採点しやすくすることを念頭に問題が作成されたと推察する。2023 年度は国

語の大幅な易化を理科と社会の難化が打ち消す形となり、合格者平均点は前年より 5.2 点上がった。以下に 2023 年度の出題傾向と対策をまとめる。

■ 合格者平均点の推移

	英語	数学	国語	理科	社会	平均点
2023年度	55.3	53.0	75.1	51.0	58.4	292.8
2022年度	52.1	52.9	61.3	58.9	62.4	287.6
2021年度	54.6	58.2	65.7	50.1	72.6	301.2
2020年度	49.4	55.7	69.1	55.9	58.2	288.3
2019年度	49.8	50.3	59.1	61.3	42.5	263.0
2018年度	56.1	56.0	65.6	45.3	41.8	264.8
2017年度	51.9	63.5	73.1	46.9	54.5	289.9
2016年度	43.0	51.7	64.7	46.5	52.0	257.9
2015年度	51.8	52.6	64.4	37.4	50.2	256.4
2014年度	59.6	51.7	60.8	38.6	49.5	260.2
2013年度	54.8	65.5	67.8	66.4	51.1	305.6

◆英語…難易度は、やや易化。

- ① 大問 2 の会話文の適語選択が一続きの会話文から小問ごとの独立短文形式に変更された。
- ② 長文問題の大問 6 で文章内の図表がなくなり、大問 8 の対話文では文字数が 2 年前より約 8 割に減った。
⇒ 難易度に差のある文法問題を素早く解き、1 問 5 点と配点の高い長文に時間をかけることが必要。

◆数学…変化なし。問題ごとの難易度の差が激しく、難易度が高い問題は昨年と同じく 18 点分出題された。

- ① 30 点分は高い思考力を必要としないが、解答までの手順が多いか数値が分数になっている。
- ② 正解率が低いものは、大問 3(エ)8.0%、大問 4(ウ)5.9%、大問 6(ウ)4.0%だった。
⇒ 大問 1 と大問 2 で満点を狙い、問 3 以降は制限時間内で解くべき問題を取捨選択する訓練が必要。

◆国語…大幅易化。昨年より合格者平均点が 13.8 点上がった。

- ① 大問ごとの出題順や点数配点は昨年度と変わりがないが、文章自体が読みやすいものばかりだった。
- ② 大問 2 の知識問題は四字熟語から二字熟語の構成に、大問 5(ア)はグラフの数値読み取りに、戻った。
⇒ 古文の知識定着、読解スピードの向上と消去法の活用、大問 5 の記述力向上が必要。

◆理科…難化。

- ① 正解率 35%を下回る問題が昨年より増えて 6 題。問題文を正しく読み取るが必要な問題も増えた。
- ② 記述問題がなくなって選択肢が易くなったが、長い問題を読んで整理・考察する力は依然として必要。
⇒ 問 1 から問 4 までの分野別問題で確実に得点を重ねる基礎知識を身に付ける。加えて、問 5 以降の単元をまたいだ知識を組み合わせて答えを出す問題は、秋以降の演習と復習が重要。

◆社会…2 年連続で難化。

- ① 設問数が 35 問、32 問、31 問と減少傾向にあるが、6 択・8 択の選択問題が昨年度より 2 問増えた。
- ② 単純な暗記では解けない知識を組み合わせて解く問題への対処と素早く解くための消去法が必要になる。
⇒ 教科書を読んで、細かい部分まで覚え直す。忘れては覚えての繰り返しを年間で行う。トップ校を狙う生徒は、より難易度の高い過去問を使って対策していく。

② 得意科目から高校を選ぶ

■ 重点化を利用する

重点化は学校が求める生徒像を打ち出したものだが、受験生の得意科目と合致するのであれば、受験をより有利にすることができる。

例えば、神奈川総合(個性化)は「学力検査(入試)のうち、点数の高い1教科を2倍」という重点化を行う。仮に右の表のように、内申点と入試得点と同じであっても、得意科目があれば逆転が可能である。

このように、得意科目と受験校の重点化が合致した場合は、有利な受験ができる。学校の校風が自分に合うかどうかも重要だが、ボーダーライン近くならば得意科目を生かせる受験も検討すべきである。

■ 重点化の例(2023年度の入試方法)

神奈川総合[A:B:C=3:5:2]学力検査の高得点1科2倍

・Xくん A:内申点 120/135点、B:学力検査 400/500点

C:面接 80/100点

	英	数	国	理	社	計
入試得点	85	70	85	75	85	400/500
重点化	170	70	85	75	85	485/600

⇒S値:830.7P

・Yくん A:内申点 120/135点、B:学力検査 400/500点

C:面接 80/100点

	英	数	国	理	社	計
入試得点	100	70	85	70	75	400/500
重点化	200	70	85	70	75	500/600

⇒S値:843.2P **13.2Pの逆転!**

■ 重点化の例(2023年度)

高校	第1次選考の重点化項目
市ヶ尾	調査書:音・美・保体・技・家のうち、点数の高い1教科2倍
市立南	学力検査:英1.5倍
川崎北	調査書:音・美・保体・技・家のうち、点数の高い1教科2倍
大和西	調査書:英2倍
橋本	調査書:英2倍
市立横浜商業(ス)	調査書:保体1.5倍
市立横浜商業(国)	調査書:英2倍 学力検査:英2倍
川崎市立橘	調査書:英2倍 学力検査:英2倍
神奈川総合(個)	学力検査:点数の高い1教科2倍
神奈川総合(国)	学力検査:英2倍
市立東	学力検査:英1.5倍
市立横浜SF	調査書:英・数・理2倍 学力検査:数・理2倍
相模原弥栄(ス)	調査書:保体2倍
相模原弥栄(音)	調査書:音2倍
相模原弥栄(美)	調査書:美2倍
横浜国際	調査書:英2倍 学力検査:英2倍

③ 特色検査

特色検査の自己表現検査は、旧入試制度の前期選抜を踏襲した内容となっている。2023年度では、横浜サイエンスフロンティア・横浜国際のIBのみ独自問題を実施し、他は共通問題と各校が事前に指定する選択問題からなり、マークシート方式が採用されている。問題の難易度は2年連続で易化した¹が、時間内に全て解くことは難しい。よって、全校共通の大問1と大問2でなるべく多く得点することが重要である。また、各高校が事前に大問2題を指定する選択問題では、解けそうな問題のみを選んで時間をかける必要がある。

この高校ごとの選択問題は、2023年度で論理力や数学的な思考力を問われる出題がさらに多くなり、大問3が10校で大問4が9校に選ばれた。副教科も含めた幅広い知識を蓄えたいうえで、知識を組み合わせる答えを出していく練習を重ねる必要がある。

相模原弥栄のスポーツ科学科、美術科、音楽科の実技検査も昨年度までの内容と同様である。横浜国際のIBコースでは、100点中50点分の配点で200語以内の英語記述問題が出題される。英検準2級以上で出題される記述問題などで練習を行うとよいだろう。

④ 得点開示について

2016年度の入試において、理科の大問3の(ウ)で正答が2つある出題ミスがあり、受検者全員に3点が加算された。また、88校330人で小問の合計得点などに誤りがあり、本来合格するはずであった2名が不合格となっていた。これを受けて、2015年度の採点に関しても答案を廃棄した3つの高校以外で調査が行われた結果、71校188人に採点ミスが見つかり、2名が不合格とされていた。そのため、2017年度の合格発表から受検者全員に各科目の得点と面接点が資料として配布された。合格発表後に各高校で配布される書類で確認ができる。

⑤ 併願校の選び方

旧入試制度では、日程的に前期選抜の合格者は私立の併願校受験を辞退していた。しかし、2013年度以降は、公立高校が第1希望である生徒のほとんどは私立の併願校を受験することとなる。また、公立の受検回数も一度だけとなってしまったため、今まで以上にきちんとした併願校選びを行う必要がある。

私立高校の中には、大学の附属校など公立高校にはない魅力をもつところが数多くある。したがって、私立高校をただ公立の滑り止めとして受験するのではなく、公立高校と同ランクの私立高校を第2希望校とした受験プランも考えた方がよい。

注：公立入試は「学力検査」を実施するため、「受験」と表記し、国私立の入試に関しては「受験」と表記しました。

■ 特色検査の例(2023年度選択問題3(ア)より)

「花火」の文脈上での意味を区別する問題

問3 次の文脈は、ある中学校での生徒(Aさん、Bさん)の会話である。会話文Ⅰを読んで、あとの(ア)～(イ)の間に答えなさい。また、会話文Ⅱを読んで、(ウ)、(エ)の間に答えなさい。

会話文Ⅰ

Aさん：来週の土曜日は花火の予定が入っているんだ。
 Bさん：花火か、いいねえ。どこの花火大会なの。
 Aさん：いや、その花火ではなく、家の近くで家族と一緒に花火をしようと思っているんだ。
 Bさん：そうか。花火というだけでは誤解されることがあるんだね。
 Aさん：ところで、打ち上げ花火っていつ頃からあるのかな。
 Bさん：江戸時代にはすでにあったみたいだよ。江戸時代の浮世絵に花火を描いたものがたくさん残っているからね。
 Aさん：へえ。結構古くからあるんだね。日本の花火の始まりは、いつ頃なんだろう。
 Bさん：花火は、16世紀後半にオランダ人がポルトガル人によって伝えられたそうだよ。最初の頃の花火は単色だったので、形を創意工夫してみたんだよ。
 Aさん：そうなんだ。形といえば、ハートやスマイルなどの花火は、見る方向によっては変な形に見えるけど、丸い形の花火はどこから見て同じ形に見えるんだよね。
 Bさん：そうだよ。打ち上げた花火玉が空中で爆発したあと、中に詰め込まれている火薬が四方八方に球形に広がっていくので、横からでも真下からでも丸く見えるんだ。
 Aさん：確かに(ア)連なるとの方向から見ても円形に見えるね。では、花火玉とはどんなものなの。
 Bさん：現在、日本で使用されている花火玉で一番小さいサイズの「2号」は直径約6cm、一番大きい「40号」は直径約120cmで、爆発したときの大きさをもとに、打ち上げる高さも決まっているんだって。
 Aさん：ずいぶん大きさに違いがあるんだね。私が家から見ている花火の花火玉はどのサイズなのかなあ。
 Bさん：それは花火の爆発音がいつ聞こえるかで大体わかるよ。
 Aさん：どういうこと。
 Bさん：光と音の速さの違いを利用すればいいんだよ。光は1秒に約30万km進むけど、音は1秒で約340mしか伝わらない。だから(イ)花火が光ってから、「ドン」という爆発音が聞こえてくるまでの時間によって、どれくらい離れた場所で見ているかが大体わかるんだ。
 Aさん：ということは、花火会場と自宅の距離がわかれば、どのくらいの高さで爆発しているかわかるから、花火玉の大きさもわかるんだね。



花火玉 (日本の花火) ウェブサイトより

*花火玉：打ち上げ花火に用いる火薬の入った玉。

(ア) 次の文章にある①～⑧の花火のうち、——線(イ)で述べられた花火と同じ意味の花火が含まれているものはいくつあるか。あとの1～8の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

私の夏休みの思い出は①花火です。家族で②花火大会に行きました。会場にはたくさんの人が③花火を見に来ていました。芝生にシートを敷いて④花火を見ましたが、まるで私に向かって開いているようでした。帰りにお店で⑤花火を買って歩いている途中、子どもが夜空いっぱい開いた⑥花火の真似をしているのを見ました。かわいかったです。後日、このとき買った⑦花火を家族としました。とても楽しかったです。⑧花火は見るのもするものどちらもいいものだと思います。

1. 1個 2. 2個 3. 3個 4. 4個 5. 5個 6. 6個 7. 7個 8. 8個

2. 東京都立高校入試について

(1) 推薦入試【入学定員の20%程度】

推薦での募集定員は、普通科が入学定員の20%、その他の学科やエンカレッジスクールは40%が上限である。また、小論文・作文・実技検査*のうち1つ以上の検査と面接をすべての学校で実施し、そこに調査書の点数を加えた「総合成績」の上位の受検者から合格する。試験日は例年1月26日頃。推薦入試では志願変更は認められない。

推薦入試の応募倍率は、以前は3倍を超えるところがほとんどだったが、主に都心にあり人気がある高倍率の学校と低倍率の学校の二極化が目立つようになってきた。出願は志望すれば可能だが、そもそも募集定員が少なく、小論文・作文*の対策が必要な上、選抜資料の50%が調査書点で決まってしまうので、一般入試でも余裕を持って合格できそうな調査書点を持っていないと、推薦入試での合格は厳しい。

※2021年度から新型コロナウイルス感染症に関する対応のため、すべての学校で集団討論を中止している。

■ 推薦入試の選考一覧および応募倍率(2023年度)

高校名	募集定員割合	調査書配点	個人面接配点	小論文・作文・実技検査配点	満点	応募倍率 男子/女子
日比谷	20%	450点(50%)	200点(22%)	【小】250点(28%)	900点	2.39/4.33
西	20%	360点(40%)	240点(27%)	【作】300点(33%)	900点	3.06/5.80
国立	20%	450点(50%)	150点(17%)	【小】300点(33%)	900点	2.85/3.83
戸山	20%	450点(50%)	150点(17%)	【小】300点(33%)	900点	2.94/4.50
青山	20%	450点(43%)	100点(9%)	【小】500点(48%)	1050点	3.10/4.62
立川	20%	500点(50%)	100点(10%)	【小】400点(40%)	1000点	2.96/4.08
八王子東	20%	500点(50%)	100点(10%)	【小】400点(40%)	1000点	1.09/2.10
新宿(普通科単位制)	10%	450点(50%)	180点(20%)	【小】270点(30%)	900点	5.91
国際(国際学科)	30%	500点(50%)	200点(20%)	【小】300点(30%)	1000点	4.24
駒場(普通科)	20%	360点(50%)	180点(25%)	【作】180点(25%)	720点	2.70/4.07
町田	20%	450点(50%)	150点(17%)	【小】300点(33%)	900点	1.52/2.20
多摩科学技術(科学技術科)	30%	500点(50%)	300点(30%)	【実】200点(20%)	1000点	1.97
狛江	20%	600点(50%)	300点(28%)	【作】300点(22%)	1200点	3.85/3.17
神代	20%	450点(50%)	150点(17%)	【作】300点(33%)	900点	2.70/3.50
調布南	20%	500点(50%)	200点(20%)	【小】300点(30%)	1000点	2.58/2.82
成瀬	20%	500点(50%)	200点(20%)	【小】300点(30%)	1000点	1.55/2.19
芦花(普通科単位制)	20%	400点(50%)	200点(25%)	【作】200点(25%)	800点	3.16
松が谷(普通科)	20%	500点(50%)	300点(30%)	【作】200点(20%)	1000点	2.96/3.35
松が谷(外国語)	30%	500点(50%)	300点(30%)	【作】200点(20%)	1000点	1.54
日野	20%	600点(50%)	250点(21%)	【作】350点(29%)	1200点	2.62/2.56
小川	20%	500点(50%)	250点(25%)	【作】250点(25%)	1000点	2.18/3.40
片倉(普通科)	20%	450点(50%)	350点(39%)	【作】100点(11%)	900点	5.54/4.32
町田総合	30%	500点(50%)	300点(30%)	【作】200点(20%)	1000点	1.74
山崎	20%	500点(50%)	300点(30%)	【作】200点(20%)	1000点	1.40/1.39
野津田(普通科)	20%	300点(46%)	300点(46%)	【作】50点(8%)	650点	1.25/1.73

① 調査書について

調査書とはいわゆる成績表のことであり、9教科の5段階の評点の合計である45点満点を、各学校が満点とする点数に換算する。

② 小論文・作文・実技検査

2013年度より、推薦入試において、小論文、作文、実技検査のどれか1つ以上を実施することになった。例年の参考として2020年度入試においては、小論文が37校、作文が115校、実技検査が18校で実施され、駒場高校の保健体育科のみが作文と実技の2つを実施した。小論文は進学指導重点校などの難関校で実施されることが多く、実技検査の実施校は全て専門学科で、普通科で実施している学校はなかった。

■小論文出題例(2020年度戸山・抜粋)

2 次の文章は太郎くんの日記の一部分である。この文章を読み、以下の問いに答えなさい。

□月□日(土)

今日の午前中は、家の手伝いをしてお小遣い2000円をもらうことになっていたが、友達から割引券があるから映画を見に行こうと誘われた。手伝いを弟に譲り、映画に行くことにした。映画は予想以上に面白くて、お小遣いは惜しかったけれど、弟に代わってもらって正解だった。映画館に行くのに定期券が使えなくてバス代が往復で400円かかった。映画のチケット代は1500円のところ1000円で見られた。

○月○日(日)

午後、新宿アリーナでのライブ。帰りの混雑を予想して電車のフリー切符を買った。普通に切符を買えば840円のところ、800円で買った。このライブはもともと10000円を出しても行く価値があると思っていたくらいだが、払い戻しができないファンクラブ限定の特別前売り券を5000円で買うことができた。それなのに、①会場に到着してみると、前売り券を家に忘れてきていた。取りに帰っている時間はない。②あきらめずにチケット売り場に行ってみると、なんと当日券が7000円でまだ販売されていた。

問2 太郎くんの○月○日(日)の日記について、次に紹介する「埋没費用」という経済学的な考え方をを用いて、以下の①、②の問いに答えなさい。なお、この問いでは金銭的費用と金銭に換算されたものについて考察することとする。

埋没費用とは「過去に支出された資金や労力のうち、回収することも取り消すこともできない費用」をいう。新たな選択や決定を行う際にはこの埋没費用を無視することが経済学的には合理的とされている。それにもかかわらず費用として意識されるため、その後の意思決定に悪影響を及ぼすことがある。

- ① 日記の文章中の下線部(1)の時点での、埋没費用に該当するものとその金額を、日記の文章中の語句を用いて、全て答えなさい。
- ② 日記の文章中の下線部(2)について、この後、太郎くんは新たに当日券を購入してライブを見た方がよいのか、それともライブを見るのをあきらめて自宅に帰る方がよいのか、どちらを選択することが経済学的に合理的なのか、①での埋没費用の考え方に触れながら、理由も含めて100字以上125字以内で説明しなさい。

③ 面接

■自己PRカード

東京都立入試では、推薦受検をする全員が「自己PRカード」を志望校に提出しなければならない。

「自己PRカード」は、2006 年度入試までは得点化され、総合成績に加えられていたが、2007 年度入試からは得点化が廃止され、選抜資料として総合的に活用されることとなった。「志望理由・中学校生活の中で得たこと・高等学校卒業後の進路」の3項目を記入し、面接の際の質問事項の資料として活用される。

■面接内容

都立高校の面接は、「志望動機」や「高校で力を入れたいこと」、「中学校時代に頑張ったこと」等のオーソドックスな質問が聞かれることが多い。事前にしっかりと練りこんでおけば心配ない。

④ 文化・スポーツ等特別推薦

都立高校の約半数で、通常の推薦入試の他に「文化スポーツ等特別推薦」というものを実施している。「運動部に所属し全国レベルの大会で活躍した生徒」や、「文化活動・ボランティア活動などで目覚ましい実績を上げた生徒」などを対象に選考をするが、どんな種目でも良いのではなく、各高校が求める種目についての実力がないと合格はできない。また「入学後も同じ分野で活動を続ける意思を持つ」ことが出願条件である。

■特別推薦実施例(2023 年度)

種目	高校名	種目	高校名
硬式野球	狛江(男3)、松が谷(男3)、 日野(男6)、富士森(男5)、 片倉(男6)、府中東(男5)、 千歳丘(男)など	サッカー	狛江(男3)、松が谷(男3)、 富士森(男3)、片倉(男4)、 府中東(男4)など
		合唱	千歳丘(男女3)など
バスケットボール	日野(男3・女3)、富士森(女3)、 府中東(女4)など	吹奏楽	富士森(男女4)、片倉(男女6) など
バレーボール	日野(女3)、府中東(女4)など	陸上競技	片倉(男女3)
バドミントン	町田総合(男3・女3)など	自転車競技	八王子桑志[クラフト](男女2)

(2) 一般入試(第一次募集)【入学定員の 80%程度】

入学定員から推薦入試合格者数を引いた残りの 60%～90%を選抜する。学力検査の結果(入試得点)と調査書の評定(内申点)を 1000 点満点になるように換算した「総合得点」に、面接や実技検査などを行った場合はその結果(得点)も加えた「総合成績」で選考を行う。試験日は例年 2 月 21 日頃。志願変更を 1 度だけ認められる。

① 学力検査

学力検査の実施教科は英語・数学・国語・理科・社会の 5 教科が基本で、実技検査を実施する総合芸術・駒場(保健体育科)・野津田(体育科)などは英語・数学・国語の 3 教科の実施となる。配点は各教科 100 点満点だが、特定の教科に比重をかける傾斜配点を行うところ(国際(国際学科)・多摩科学技術など、全 8 校)や、面接を実施するところ(野津田(福祉科)等、全 8 校)もある。また、主に上位高校で英数国の 3 教科を中心に独自問題を作成している。なお、2016 年度より、採点ミス防止のためマークシート方式が採用されている。

■ 独自問題(自校作成問題)実施校(2021 年度入試)

日比谷・西・国立・戸山・青山・立川・新宿・八王子東・墨田川・国分寺の計 10 校は英・数・国で独自問題を実施。国際は英語のみ独自問題。

② 選考資料

入試得点を 700 点満点に、内申点を 300 点満点に換算して算出した総合得点(1000 点満点)の結果で選考する。面接や実技検査がある場合は、その結果も加えて判断する。

■ 入試得点(学力検査得点)

5 教科もしくは 3 教科で実施した入試得点(各教科 100 点満点)を、700 点満点に換算する。

■ 内申点(調査書得点)

中 3(2 学期)の 9 教科 45 点満点の内申点(評定)を、学力検査実施教科が 5 教科か 3 教科かで次のように換算内申を出し、それをさらに 300 点満点に換算する。

学力検査の実施教科数	換算内申の求め方									
	英	数	国	理	社	音	美	保体	技家	計
5 教科 (英数国理社)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	45 点満点
	↓	↓	↓	↓	↓	↓×2	↓×2	↓×2	↓×2	↓
	5	5	5	5	5	10	10	10	10	65 点満点
3 教科 (英数国)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	45 点満点
	↓	↓	↓	↓×2	↓×2	↓×2	↓×2	↓×2	↓×2	↓
	5	5	5	10	10	10	10	10	10	75 点満点

■ 総合得点

総合得点＝学力検査得点＋調査書得点（＋面接・実技検査得点）で計算される。

総合得点計算例（学力検査5教科実施の場合）

（例）Aくん

	英	数	国	理	社	音	美	保体	技家	計
入試得点	85	76	82	78	92	/	/	/	/	413
内申	5	4	4	5	4	3	5	3	3	36

（i）入試得点を学力検査得点に換算する

$413(\text{入試得点}) \div 500(\text{入試満点}) \times 700(\text{学力検査得点満点}) = 578.2(\text{点})$

学力検査得点＝578点（小数点以下切り捨て）

（ii）内申点から換算内申点を求め、調査書得点に換算する

$\text{換算内申} = (\text{英数国理社の合計 } 22) + (\text{音美体技の合計 } 14) \times 2 = 50(\text{点})$

$50(\text{換算内申}) \div 65(\text{換算内申満点}) \times 300(\text{調査書得点満点}) = 230.8(\text{点})$

調査書得点＝230点（小数点以下切り捨て）

（iii）総合得点を求める

総合得点＝578(学力検査得点)＋230(調査書得点)＝808(点)

③ 英語スピーキングテストについて

中学校における「話すこと」の指導を充実させ、高等学校での「使える英語力」へのベースとするとともに、「話すこと」に関する評価を導入するために、2023年度入試からESAT-J（東京都中学校スピーキングテスト）が導入される。

■テスト実施要項

- ・2023年度は2022年11月27日(日)に実施(予備日は12月18日(日))
- ・2023年1月中旬に結果帳票を受け取り、調査書とともに提出する
- ・中学学習指導要領に準拠した内容で出題
- ・タブレット等の端末に解答音声を録音する方法で実施
- ・受験回数は1回
- ・中3生全員が受験(国私立高校への進学希望者も受験)
- ・テストは都教委が監修し、民間団体(ベネッセ)が行う ※中学校等の教員は関与しない
- ・配点は20点分(1020点満点)
- ・結果はA～Fの評価で表され、総合得点に20点満点で加算される。そのため総合得点は1020点満点となる。
A:20点 B:16点 C:12点 D:8点 E:4点 F:0点
- ・2021年に実施されたプレテストでは以下の結果がでている
A:11.7% B:20.3% C:27.0% D:23.9% E:15.3% F:1.9%

■スピーキングテスト 問題スクリプト(放送台本)

【No. 1】 *What is your favorite animal?*

【No. 2】 *What time do you usually get up?*

【No. 3】 *Do you have any plans for next Sunday?*

→ Yesボタンを押した場合→*What are you going to do next Sunday?*

→ Noボタンを押した場合→*What do you usually do on Sunday?*

【No. 4】

Please read the Japanese. You have 30 seconds.

Please read the Japanese and English. You have 30 seconds.

Now, please read the English. You have 30 seconds.

【No. 5】

Please read the Japanese. You have 1 minute.

Now, please begin. You have 45 seconds.

【No. 6】

Please read the Japanese. You have 1 minute and 30 seconds.

Now, please begin. You have 45 seconds.

英文を声に出して読みなさい。(解答時間 30 秒)

30 秒で、次の【アナウンス原稿】を、声に出して読みなさい。

【アナウンス原稿】

Good morning, everyone. You can't use the school gym today. If you want to play basketball after school, please play at Green Park. The gym will be open again tomorrow. Thank you.

イラストを見ながら話しなさい。(解答時間 45 秒)

では、イラストを見ながら、指示の後に、次の行動を順番に話しなさい。話すときは、次に示す【最初の英文】で始め、それに続けて 3 枚のイラストについて、まとまりのある報告をしなさい。解答時間は 45 秒です。

【最初の英文】 We went to a zoo today.



スピーチをしなさい。(制限時間 45 秒)

日本で一番好きな季節と、それに関連する内容について、指示の後に、スピーチをしなさい。話す文の数は 3 つ以上、制限時間は 45 秒です。

<話すことの例>

- ・その季節が好きな理由
- ・好きな理由の補足情報
- ・その季節にすること など



④ 合格者の決定方法

男女別定員制をとっている都立の普通科では、男女別に総合成績の上位の受検者から合格者を出す。なお、2022 年度入試では募集人員の 90%までは男女別で選抜し、残りの 10%を男女混合で選抜する男女枠緩和による選考を実施した。

また、単位制や専門コースなどでは最初から男女混合で募集を行い、総合成績順で選抜を行う。

(3) 第二次募集

一般入試(第一次募集)で入学手続き者が募集定員に達しない時は、第二次募集を行う。学力検査は英語・数学・国語の 3 教科で実施され、学力検査得点と調査書得点の比率は、6:4 である。第一次募集では男女別に募集を行っていた普通科でも男女混合で選抜を行う。

また、当初から一般入試の募集定員の一部を、この第二次募集の期間に募集する「前後期分割募集」を実施するところもある。

3. 国私立高校入試について

(1) 私立高校の入試制度

私立高校の入試制度は大きく4つに分類することができる。①推薦 ②専願(単願) ③併願 ④オープン入試(一般入試)である。

① 推薦

■ 一般的な推薦制度

一般的な推薦制度とは、内申点を利用して第一志望の私立高校に合格する方法である。12月15日頃に、中学校を通じて希望する私立高校へ入試相談を行う。その高校が定めた基準(内申点や欠席日数など)を満たしていれば出願が認められる。この時点で確約を得たことになるが、他の高校には出願できなくなる。ほとんどの高校が1月23日前後に面接や作文を実施して、人物に問題がないか確認が行われる。

■ 特殊な推薦制度

法政二・法政国際(旧・法政女子)は入試相談のみで合格の確約が出るため、面接や試験を実施しない。この形式を書類選考と呼ぶ。一方、他の難関校は入試相談によって推薦の出願を認めるだけで、その後に適性検査(主要3科か5科の学科試験)や小論文や厳しい面接などで合否を決定する。こうした高校は倍率も高いので、推薦入試で不合格だった場合に備えて他校受験の準備や計画が必要である。

◆ 独自の推薦制度を導入している高校例 ◆

高校名	試験内容	確約
法政二・法政国際(旧・法政女子)	書類選考後の出願時に作文提出	有
早大高等学院	ハイレベル面接(30分・面接官3人:生徒1人)	無
青山学院	作文(出願時)・適性検査(3科)・面接	無
日本女子大附	作文・面接	無
中央大・明大中野八王子	適性検査(中大5科、明八3科)・面接	無

■ 他校を受験できる推薦制度はなくなった

一部の私立高校では、推薦の定員枠で後述する併願入試を実施していた。しかし、2013年度に神奈川県や東京都の公立(都立)入試制度が変更されて以降、推薦入試に合格した後は他校を受験できなくなった。現状では、推薦入試は当該高校を第一志望としなければならない。

② 専願

専願は、「単願」と呼ばれることもある。第一志望を前提とした入試制度であり、その意味では推薦制度とほぼ同じ役割を持つ。確約をもらう時期も推薦と同じく12月15日頃の入試相談時である。内申基準は、推薦より専願のほうがやや緩やかになっていることが多い。そのため、推薦の内申基準に届かないときに、専願制度を利用する。

推薦と異なる点は、一般の受験者と同様に学科試験を受けることである。しかし、これは合否を決定するためではない。一般受験の定員枠で合格させ、入学後のクラスを決定するためである。学校によっては、学科試験の結果が優秀だった場合に特進クラスへのスライド合格を認める制度もある。

③ 併願

■ 一般的な併願の仕組み

併願は、俗に「すべり止め」とも呼ばれる。主に公立(都立)高校を第一志望とする生徒を対象にした制度である。各私立高校には、独自に定めた併願の内申基準がある。それを満たしていれば、中学校を通じて入試相談で合格の確約が提示される。一般の受験生と同様に学科試験を受ける必要はあるが、受験さえすれば合格するので、その後の公立(都立)高校受検にも安心して臨むことができる。ただし、公立(都立)高校が不合格になった場合は、併願制度を利用した私立高校に進学しなければならない。

■ 他の私立高校と併願できることもある

公立(都立)だけでなく、他の私立高校に対しても併願を認める私立高校が存在する。公立(都立)と私立高校の両方を一般受験する場合や私立高校が第一希望の時に、併願可能な私立高校を選ぶ必要がある。

◆私立高校と併願可能な高校例◆ 注:内申の詳細は各校のページを参照下さい。

内申の目安	高校名
5科 23 以上	中央大横浜・山手・青稜・桐蔭(プ)・都市大等々力・朋優・日本大(総進)
5科 21 前後	桜美林・佼成(グ)・駒澤・文教大付・目黒日大・東海大相模・麻布大附(進)
5科 18 以上	相模女子大(進)・横浜(ア)・目黒学院(アド)・保善(大選)

■ 「書類選考」という名称の併願制度もある

一部の私立高校では、内申基準のみで学科試験を課さない「書類選考」という併願制度がある。私立をオープン(一般)受験する場合に、併願校で受験日を拘束されないという利点がある。

◆学科試験を受けずに併願可能な高校例◆ 注:内申の詳細は各校のページを参照下さい。

高校名	詳細
桜美林(クラス分けテスト有)・麻布大附・相模女子・英理女子	作文を提出。
藤嶺藤沢・鶴見大附・横浜商科大・横浜・武相・藤沢翔陵(特)	エントリーシートなどを提出。
中央大横浜・向上・横浜創学館(特・文選)	特になし。

■ 確約のない併願制度もある

一部の上位私立高校では、内申基準の他に入試でも一定以上の得点を課す併願制度がある。その得点に満たなければ不合格となるので、事前に得点力を確認しておく必要がある。

◆併願で一定の入試得点を課す高校例◆

高校名	入試点数
朋優	3科合計 130 点以下は不合格。
東農大一	5科の内申点によって入試に 10 点～30 点を加点。
八王子(総合)	併願基準を満たしていれば入試得点に 50 点を加点。

注:桜美林は 2019 年度より入試得点を課さなくなった。

④ オープン入試

オープン入試は「一般入試」と呼ばれることもある。オープン入試の定員枠は専願や併願とは別に設けられ、受験当日の点数のみで合否が決まる。内申点が低くても実力のある生徒にとっては、有利な制度といえる。ただし、難関校では中学の指導要領を越えて出題されることがある。併願制度のない日大三や國學院などと比較すると、併願とオープンの枠が同じ中央大横浜などは合格者が少ない。また、2次募集を実施する高校もある。

◆オープン入試を実施する難関校の例◆

高校名	高校名
東京学芸大附属(国立)	中央大学
お茶の水女子大附属(国立)	中央大学附属
東工大附属科学技術(国立)	桐光学園
慶應義塾	明治学院
慶應義塾女子	法政大学第二
早稲田実業	法政大学国際(旧・法政大学女子)
早稲田大学高等学院	日本女子大附属
青山学院	明大中野八王子

◆私立高校の入試カレンダー◆

12月

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			
← 成績発表・三者面談 →											← 入試相談 (推薦・専願・併願) →																						

1月

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
																	← 出願 (推薦) →				← 入試(推薦) 合格発表翌日 →										

2月

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28		
← 出願 (専願・併願・オープン) →								← 入試(専願・併願・オープン) 合格発表翌日 →																					

注：一般的な高校を例としています。高校によって時期が違ふことがあります。

(2) 受験校を選ぶ際のポイント

① 内申基準について

私立高校を推薦・専願・併願などで受験する場合、各校で内申基準を設定している。正式発表はその年度の10月1日となっているが、説明会などで事前に公表することも多い。その表記は多種多様であるが、次のようなものが代表的である。

- ・神奈川県公立高校の入試に使用する内申点をそのまま使用する(135点満点)
- ・3年生の12月に出る内申点を基準にする(3科・5科・9科)
- ・2年生の学年末と3年生の12月に出る内申点を合算する(3科・5科・9科)

内申点に加え、以下のものも評価対象になるが、欠席日数を除き、多少の加点程度の場合がほとんどである。欠席日数に関しては、入院等特別な事情ではない限り、出願資格を失う。

- ・部活動の実績(一般的に県・都大会レベル以上が必要)
- ・検定(英検・漢検・数検などで3級以上。準2級以上が必要な場合も多い)
- ・生徒会役員・委員会などで「長」として活動した実績
- ・課外活動の実績(ボランティア・社会福祉活動など)
- ・中学3年間の欠席日数が〇〇日以内(学年ごとの場合もある)

② 公立(都立)高校のみの受検は避ける

公立(都立)高校のみを受検するのは、なるべく避けるべきである。緊張してしまったり体調が悪かったりして、全力が出せない場合があるからである。

加えて、併願校を受けずに公立(都立)高校のみを受検すると、必ず合格できそうな安全圏の高校を選ぶことになる。本来の学力よりもやや下の高校を受検しなければならないので、高校を選択する上でも不利であると言える。

さらに、万が一不合格になった場合は、二次募集を行っている高校を探すことになる。公立(都立)高校では必ずしも募集するとは限らず、本人の学力に合う私立高校が募集を行う保証もない。よって、公立(都立)高校が第一志望であっても、よほどの事情がない限りは併願校を受ける準備をするべきである。

③ 公立(都立)トップ校受検に私立一般受験も加える

公立(都立)トップ校を受検して不合格だった場合、進学先は私立の併願校となる。しかし、内申による確約がある併願校は、公立(都立)トップ校に比べて大学進学実績が落ちてしまうことが多い。将来の選択肢を有利にするためには、大学付属校や進学実績の良い私立も一般受験しておくことをお勧めする。

特に公立(都立)トップ校は合格者平均点が高得点化していて、公立(都立)高校のトップ・上位校では9割近い正解率が求められる。ミスをせずに解く力や出題傾向が変わっても得点できる応用力が必要である。また、都立で独自入試を実施する高校では、偏差値65前後の私立難関校に匹敵するレベルの問題が出題される。偏差値70前後の国私立難関校レベルの問題を解くことは、公立(都立)入試の問題を早く確実に解くことにも役立つ。

また、私立難関校にオープン入試で合格しておくことにより、万が一の際に併願校のレベルまで進学先を落とすリスクを避けられる。費用がかかる私立に通うことになるのであれば、より将来の選択肢が多い高校を選択すべきであろう。

いずれの場合にせよ、公立(都立)高校が第一志望でも私立を一般受験するメリットは十分にある。ただし、私立難関校の一般入試では、高校レベルの公式や熟語などが出題されることもあるので、受験の際には十分な対応が必要となる。

④ 3年間通いたいと思える高校を選ぶ

例年、夏休みから秋にかけて学校説明会・進路相談会等が集中して開催される。必ず複数の高校を見学した上で、最終的に2~3校に絞りこむ。その中で優先順位をつけ、12月に行われる中学校の三者面談の席上で担任に意志を伝える。「すべり止め」だからと言って、安易に選ぶのではなく、万が一の場合を考え、十分に調べて納得した上で選ぶべきである。

⑤ 共学校だけではなく、男子校・女子校も検討する

共学校は人気が高いが、共学だけに絞ってしまうと選択肢が狭まることが多い。共学校のみを検討するのではなく、男子校や女子校にも候補を広げ、通学可能な地域の高校は可能な限り見学に行ってもらいたい。実際に見学してみると、「想像以上に良かった」と、志望校を変更する場合も多い。例えば、日本女子大附などは大学の附属校であるため、大学受験を意識せずのびのびと高校生活をおくることができるメリットもある。「男子校(女子校)だから…」という理由だけで進学先の候補から外してしまうのはもったいない。

⑥ 入学手続き費用の「延納」「返還」制度を上手に利用する

ここまで述べた通り、公立(都立)高校を第一志望にしている生徒のほとんどは、併願として私立高校を受験する。しかし、合格発表日は私立高校のほうが早いので、先に入学金を支払うと公立(都立)へ合格した時に経済的負担が大きい。

そこで、私立高校の中には、公立(都立)の合格発表日以降に手続き日を設定したり、発表日まで費用の延納を認めたり、一部を返還したりするところがある。この制度を上手く活用することにより、経済的にムダのない高校入試が可能になる。

◆手続きが公立(都立)合格発表日以降の高校例◆

■ 神奈川県

英理女子学院(旧・高木学園女子)・鶴沼・向上・光明学園相模原・相模女子大・橘学苑・鶴見大附・藤嶺学園藤沢・白鷗女子・藤沢翔陵・武相・横浜・横浜学園・横浜商科大・横浜翠陵・横浜清風・横浜創英・横浜創学館など

■ 東京都

共立女子第二・国本女子・京華・佼成学園・駒場学園(普)・品川翔英・自由ヶ丘学園・松蔭大附松蔭・正則・玉川学園・帝京大・東京家政学院・東京都市大等々力・東農大一・トキワ松学園・日本工業大駒場・八王子実践・富士見丘・保善・目黒学院など

◆届出をすれば延納できる高校例◆

<p>■ 神奈川県 大西学園・法政大学国際(旧・法政大女子)・法政大学第二・横浜隼人など</p> <p>■ 東京都 関東国際・工学院大附・国士館・駒沢学園女子・駒澤大・品川エトワール女子・下北沢成徳・正則学園・青稜・専修大附・多摩大目黒・東京・東京実業・日本体育大荏原・広尾学園・フェリシア(旧・鶴川)・文教大付・明治学院(一般②)・目黒日本大学・八雲学園・和光など</p>

◆手続き費用の一部だけを納入する高校例◆

■ 神奈川県	高校名
5万円以内	麻布大附(5万円)・桐蔭学園(5万円)など
10万円以内	東海大相模(6万円)・桐光学園(10万円)・日本大(10万円)など
15万円以上	鎌倉学園(15万円)・日本女子大附(25万円)・日大藤沢(15万円)・山手学院(20万円)など

■ 東京都	高校名
5万円以内	桜美林(3万円)・東海大高輪台(5万円)・日大櫻丘(3万円)・日大三(B志願5万円)など
10万円以内	國學院(7万円)・日大鶴ヶ丘(特進・総進6万円)など
15万円以上	青山学院(32万円)・中央大(30万円)・明大明治(30万円)・早大高等学院(26万円)など

◆納入した費用を一部返還する高校例◆

注:返金される金額(返金されない金額)で記載	
■ 神奈川県	慶應義塾 59.1万円(34万円)
■ 東京都	慶應女子 55.8万円(34万円)・早稲田実業 12.6万円(30万円)・早高院 47.8万円(26万円)

⑦ 私立高校の学費補助を利用する

2014年以降に私立高校へ進学した場合、国からは「高等学校等就学支援金」が支給される。さらに、神奈川県では「学費補助金」と「入学金補助」、東京都では「授業料軽減助成金」が支給される。これらの支給額は「(都)民税・市町村民税の所得割額」の合算額で異なる。なお、申請は進学した私立高校経由で行われる。

ここで注意したいのは神奈川県の学費補助である。この制度は神奈川県の私立高校に通学する場合のみ適用される。東京などの私立高校に進学した場合、支給されるのは国の学費補助だけとなる。これに対して、東京都の学費補助は他県の私立高校にも適用される。なお、これらの補助金は2020年度から適用される。

◆神奈川県の場合◆ 年収が700万円未満か多子家庭だと補助が多い

年収目安	非課税	590万円未満	700万円未満	750万円未満	800万円未満	910万円未満
国の補助	396,000円	396,000円	118,800円	118,800円	118,800円	118,800円
県の補助 (多子家庭)	210,000円	100,000円	100,000円	100,000円	対象外	対象外
	60,000円	60,000円	337,200円	74,400円 (337,200円)	対象外 (337,200円)	対象外 (74,400円)
合計 (多子家庭)	666,000円	556,000円	556,000円	293,200円 (556,000円)	118,800円 (456,000円)	118,800円 (193,200円)

注：県の補助は上段が入学金補助、下段が授業料補助。

注：生活保護を受給しているか非課税の家庭には、授業料以外の負担を軽減する県の補助「神奈川県高校生等奨学給付金」(年間52,100円～152,000円)がある。県外の私立高校にも利用できるが、その場合のみ申請者自身が手続きを行う。

注：多子世帯とは、15歳以上23歳未満の扶養している子どもが3人以上いる家庭。

◆東京都の場合◆ 年収910万円未満には実質無償化。子ども3人以上の世帯にも補助

対象世帯区分			【全日制定時制】 軽減額 (年額)	【都認通信用】 軽減額 (年額)	
A	区市町村民税課税標準額×6%－区市町村民税調整控除相当額が、154,500円未満の世帯		65,000円	対象外	
B	区市町村民税課税標準額×6%－区市町村民税調整控除相当額が、304,200円未満の世帯		342,200円	135,200円	
C	上記Bの基準を超過する場合で、世帯人数に対応した基準額以下の世帯※ ※なお、以下の世帯は、Bの基準が上限額になります。 I. 申請者1人のみ所得がある世帯のうち世帯人数が2人、3人、4人の世帯 II. 申請者と配偶者2人に所得がある世帯のうち、世帯人数が2人の世帯				
	区市町村民税課税標準額×6%－区市町村民税調整控除相当額が一定基準以下の世帯				
	世帯人数	I. 申請者1人のみ所得がある世帯			II. 申請者と配偶者2人に所得がある世帯
	3人	－			320,340円以下
	4人	－			378,120円以下
	5人	313,800円以下			438,060円以下
	6人	327,600円以下			451,860円以下
7人	358,680円以下	482,940円以下			
8人以上	358,680円に世帯人数が1人増すごとに		482,940円に世帯人数が1人増すごとに		
	31,080円を加えた額以下			31,080円を加えた額以下	
D	上記Cの基準を超過する場合で、扶養する23歳未満の子が3人以上いる世帯(多子世帯)		59,400円	59,400円	

注：上記の東京都の補助金とは別に国の補助金が神奈川県と同様に支給される。

注：東京都も神奈川県と同様の「奨学給付金」制度があり、支給額も変わらない。